

## 2022年度 事業計画

施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

### 1 利用計画数

事業名： 自立体験室事業（一般利用）	定員	3人	利用予定数	6人
事業名： 自立体験室事業（短期利用）	定員	2人	利用予定数	18人
事業名： 短期入所事業	定員	2人	利用予定数	130人
事業名： 短期入所事業（緊急利用）	定員	1人	利用予定数	40人
事業名： 日中ショートステイ事業	定員	1人	利用予定数	65人

### 2 事業実施計画

#### (1) 活動・支援の内容

##### 概要

- ① 自立体験室事業（一般利用・短期利用）  
18歳以上かつ、区内に3年以上居住し、地域での生活を目指す身体障害のある方を対象として、一人ひとりの適性や目標、利用期間に応じたプログラムを提供する。
- ② 短期入所事業（緊急利用含む）  
区内に居住し、身体障害者手帳及び障害福祉サービス受給者証を持つ65歳未満の方を対象として、本人の体験や家族のレスパイトのため、3泊4日を上限とした宿泊利用とその介助を行う。また、本人や家族に緊急の事由が起きた際には、緊急の短期入所として受け入れを行う。
- ③ 日中ショートステイ事業  
自主事業として、短期入所に準じたサービスを日帰りで提供する。

#### (2) 地域交流

- ① 地域住民との交流・連携  
地域で暮らす障害当事者の共同作業・食事・語らいの場であった「まどカフェ」は、コロナ禍の中、休止を余儀なくされているため、ホームページを用いた情報発信を積極的に行い、地域とのつながりを維持する。
- ② 関係地域機関との連携・交流  
自立支援協議会、玉川支援ねっとなどへの参加を通じて、地域の諸機関とのさらなる連携を図っていく。特に支援ねっとにおいては、運営の中核を担いながら、コロナ禍においても、地域の施設職員や利用者同士の関係性維持に資する活動を行っていく。

#### (3) 家族、関係機関との連携等

- ① 本人・家族からの情報収集  
支援記録に基づき、次回利用に備えて必要な情報を利用者・家族から収集する。また利用者の新たなニーズや支援者の気づきを中心に、情報ファイルの更新を随時行う。
- ② ケース会議（支援会議）の開催・参加  
特に自立体験室（一般利用・短期利用）においては、引き続きケース会議（支援会議）を積極的に開催することで、効果的な支援プランの策定につなげていく。また、他施設から要請があった場合にも協力できるようにする。
- ③ 短期入所における受け入れ態勢構築  
利用者状況フォーマットを作成する他、薬などを一元化してやり取りできるポーチを利用者に配布し、モノと情報を円滑に受け取れるようにする。

#### (4) ボランティアや実習生の受入れ

コロナ禍により受け入れは行えていないが、障害当事者のホームページでの発信など、地域の様々な方が運営に参画できる方法を模索していく。

## (5) 危機管理

### ① 感染症対策

前年度に作成した新型コロナウイルス対応マニュアルや、BCP（事業継続計画）に基づき、館内の定期消毒や感染防護措置、対応訓練を行う他、インフルエンザやノロウイルスへの対策も引き続き行う。

### ② 防災・減災計画

定期的な防災備品管理を行いながら、災害備蓄を継続的に行っていく。自然災害対応BCPを元に年2回の防災訓練を行い、避難順路確認や安全確認動作の定着を図る。

### ③ 防犯計画

各種防犯設備の使用法等を定期的に確認することで、有事での迅速な活用につなげる。

### ④ マニュアルの更新

電子化を推進し、タブレットを用いて情報共有や更新が行いやすいようにする。

## (6) 職員研修の実施

### ① 個別研修・地域生活ラボ

複合的な視点から支援を展開する必要があるなかまっち事業において、職員の専門性を「障害」「介護」「制度」「地域」と位置づける。各分野においてスキルアップを図り、得た知見を共有し合う場を「地域生活ラボ」とし、随時開催する。上記をなかまっちの年度研修計画とし、それに基づいて個別研修計画を策定する。

### ② 法人全体研修

法人研修委員会に参加し、各職場での支援課題を元に研修テーマを抽出、ディスカッションも含めた研修を企画する。

### ③ 職員のキャリア・スキルアップのための研修参加

なかまっち全職員が、それぞれの業務やキャリアに合った研修に参加できる機会を確保する。また、同行研修やオンライン研修を充実させる。

### ④ 福祉動向・施策・支援などの情報蓄積

「支援情報ライブラリー」に国内・地域での各種支援情報を引き続き蓄積し、支援や地域生活ラボにおいて活用する。

## 3 重点課題と取り組み

2022年度は以下の点を重点課題として取り組む。

### ① 自身体験室事業の体系化とツール作成

昨年度は各利用者の状況とニーズの変遷を一覧できる「支援マップ」を活用しながら支援を行ってきた。今年度はこれに加えて、利用者像を体・心・地域の観点から立体的に捉えるツールを開発する。トータルとして「自身体験室支援ハンドブック」としてまとめ、体系的に地域移行支援に取り組んでいく。

### ② 地域生活支援拠点に対応する緊急利用体制の構築

令和4年度から開始される地域生活支店拠点等にあたって、なかまっちも緊急利用における参画を予定している。行政や他事業所と緊密に連携を取りながら、受け入れ体制を構築していく。

### ③ 医療的ケアへの理解促進

医療的ケア児・者が増えている世田谷区の現状を研修への参加などを通して認識し、どの様な受け入れが可能なのかケーススタディを行う。その結果を嘱託医や法人他施設のナースとも検討しながら、引き続き今後の方針作りを行う。

### ④ 地域生活につながる生活の場の構築…利用者の役割づくり

自身体験室の利用者において、なかまっちにまつわる役割（新聞取りや清掃など）を、利用者の意向に合わせて担って頂けるよう促してゆくことで、他者と共に生活していることを再認識する機会とし、今後の地域生活においても自己肯定感を持って周囲との関りを構築するきっかけとなることを目指す。